まとめにかえて

- ５世紀以降、在地勢力である紀直（紀国造）が日前宮平野一帯の灌漑用水を整備。管理。

- 海人の掌握：漁撈・製塩（水産加工品、塩）
- 日韓交流の橋渡し

- 渡来系技術者の積極的な登用。５世紀前半（第１波）５世紀後半（第２波）

- 日前宮平野部における農業生産力が大幅に飛躍。

- 有力豪族として紀伊国造の地位を不動のものとしたと考えられる。

鉄艇をはじめとする鉄製品、陶質土器、初期須恵器の出土、鹿角製刀装具などの権威の象徴ともいえる遺物の出土は海人集団への畿内王権、有力氏族による海の生産活動への深いかかわりを示す。

交易物資として水産資源が重要な位置付けであったことを示し、西庄遺跡の海人が社会構造の中に組み込まれていたことを如実に示している。

船を巧みに操り航海術に長けた彼らは、平時には漁撈・製塩を営む海の民であるが有事には水軍の水主としての側面を持っていた。

このことによって紀伊の古代豪族がその後も力を持ち続けることができた。